



来る令和五年三月十一日、東日本大震災より十二年、被災物故者十三回忌を迎えます。全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）では全国加盟曹青会とともに、発災当初より災害支援活動に鋭意取り組んでまいりました。今年度の活動を紹介します。

昨年十一月二十六日には、宮城県曹洞宗青年会を主管として、曹洞宗青年会第四十七回東北地方集会「宮城大会」が、全曹青・禅文化学林と併催されました。石巻市の会場に東北管区各曹青会員が出席し、十三回忌慰霊供養の歎佛法要と復興祈願の<sup>だいほんにゃ</sup>大般若法要が行われました。また子どもたちによる舞台公演や慰霊



「宮城大会」大般若会 海の方角に向かって行われた

の打ち上げ花火など、被災地の皆さまの心を安らげる大行事となりました。

本大会のテーマは「伝心」。亡き方へ想いを伝え、そして震災の慰霊ならびに復興への祈りと記憶を未来へ伝えるべく、これから先も活動を続けていくことを誓いました。

曹洞宗福島県青年会では昨年九月より、十三回忌正当法要奉讃の慰霊行脚「絆の道」を行っています。福島県の沿岸線全てを南から北へ約百三十キロ、この十二年間の被災者の想いに寄り添うため、そして復興への願いを込め、寒さや雪・雨の中でも力強く歩んでいます。

「東日本大震災十三回忌に向けて」

会長 山田 俊哉やまだ しゅんさい



「絆の道」海岸での読経の様子

その慰霊行脚に、全曹青も参加させていただきました。原発避難解除区域を共に歩き、あれから時が止

まっている所、力強く動き出している所、それらの現状を目の当たりにして胸が詰まりました。被災者と地元青年僧侶の想いを結ぶ「絆の道」は、被災地を勇気づけ、福島は今に改めて気持ち寄せてもらうきっかけとなることでしょう。

被災地に届けます。

全曹青では三月十日に福島県伊達市・成林寺さまに建立された納経塔で、慰霊復興祈願法要を執り行います。全日本仏教青年会とWFBY世界仏教徒青年連盟との共催で毎年行っていますが、ここ二年はコロナ禍により現地に参加することができず、オンライン開催となりました。今年こそは現地で、沢山の全国の仲間と共に、想いをひとつにして開催できることを願っております。またオンライン配信を併せて行い、世界の祈りを

これまででの支援活動では、歴代先輩方が、懸命に活動される姿を我々に見せてくれました。必死に背中にいつか届いた日々が思い出されません。その歴史の中に今いる我々が、この十三回忌の節目を迎えるにあたり、責任を持って、そしてさらに未来へ繋げていく使命を持って、心を込めてお勤めさせていただきます。被災者の皆さまの悲しみと苦しみが未だ癒えていないということを決して忘れずに、その悲しみと苦しみに寄り添い、私たちは今後も活動を続けてまいります。



●執筆者プロフィール

会長 山田俊哉

秋田県曹洞宗青年会所属